

県外派遣審判員報告書

作成日 平成30年12月26日

大会名	第71回全国高等学校バスケットボール選手権大会	会場	武蔵野の森総合スポーツプラザ
期間	平成30年12月23日～24日	報告者	隈元 ゆみこ

スケジュール

期日	内容			場所	
平成30年12月23日	14:00～	女子1回戦 昌平 対 和歌山信愛		武蔵野の森総合スポーツプラザ	
平成30年12月24日	9:00～	女子2回戦 四日市商業 対 宇都宮文星女子			
実技	割り当て	女子1回戦 昌平 対 和歌山信愛	U1	相手	CC:中村(吉森A) U1:水木(秋田A)

○ゲーム前（プレカンファレンス）

チームの特徴について。昌平については、県予選の動画をチェックしていたため、キーマンについてやプレイの特徴について、それぞれが持っている情報を出し合った。和歌山信愛については、動画等がなかったため、パンフレットから長身選手などの確認をした。キーマンに対するマッチアップについては、必ず誰かがとらえておくこと、積極的なローテーションを行うこと、プレスDefの際に、Cを押し上げるためのLのローテーションのタイミング、OOBの協力、タイマーやショットクロック管理、その他のクルーワークなどについて話をした。

○ゲームの実際

PGCで目を当てておこうと話をしていたキーマンは、自分たちの予想と裏腹にほとんどプレイタイムが少なく、大きなことは起こらなかった。難しい現象もなく、ボールのところでしか何かが起こることはなかったため、それぞれのプライマリ・エリア、アングルの中でしっかりと判定を積み重ねていくことで、ゲームはスムーズに進んでいったように思う。ローテーションについては、特に前半、積極的にローテーションすることを意識したからか、逆にボールがふられてしまい、判定はしたものの、本来は誰が判定した方がよかったのか？といった3人のローテーションがうまくいっていない場面が見受けられた。この点について、クルーで、一呼吸置いて状況を見てから開始しようと話をしたことで、後半はだいぶ修正できたように思う。アイコンタクトやコミュニケーションを図っていくことで、クルーとして3人で協力してゲームを進めることができた。

○ゲーム後（ポストカンファレンス） 主任 谷古宇 孝 氏（東京都）S級

3人の反省にあったように、特に前半はローテーションのタイミングが早く、プレイが逆にいってしまう場面が見受けられたが、後半になるにつれ修正できていた。クローズダウンポジションで少しプレイを見てから開始することや、バックペダルをうまく活用することで改善できる。判定について、マージナルなものがコールされてしまっていたので、プレイをもう少し長く捉えることで、RSBQがどうか？というところをしっかりと見てから判定につなげることをしていけば良い。目を当てているところは悪くないので、その点を改善するだけでもまた変わってくることなので、笛を吹くタイミング（セカンダリーでコールする場面も含め）についても、今後、改善とトライをしていってほしい。

実技	割り当て	女子2回戦 四日市商業 対 宇都宮文星女子	CC	相手	U1:中根(愛知A) U2:吉宇田(東京A)
----	------	-----------------------	----	----	------------------------

○ゲーム前（プレカンファレンス）

初めてのクルーなので、用意していったPPTを使用して、メカニクスの確認やクルーワーク（OOBの協力の仕方、チームファウルの数、クロック管理など）など、基本的なことをお互いに意見等を出し合いながら丁寧に確認することに努めた。チームの特徴について、宇都宮文星女子については、昨日の映像を確認したことで気づいたこと（キーマンやプレイの特徴など）や映像情報のない四日市商業については、愛知IHでの様子や東海大会等での情報を出し合い、共有してゲームに臨んだ。また、今大会は3年生が最後の大会でもあるので、もし点差が開いたとしても、最後の最後まで頑張ってプレイしてくるので、集中を切らすことなく3人で協力してゲームを進めていこうという話をした。

○ゲームの実際

PGCで確認したこともあり、ローテーションも比較的うまくいき、それぞれがプライマリ・エリア、アングルの中で判定することができた。途中、ローテーションがうまくいっていない時間帯やバックコートから仕掛けてくるDefに対してCが残ること、コントロールがどうだったか、そのことによるショットクロックの確認など、ゲーム中もアイコンタクトやコミュニケーションがしっかりとれていたのも、クルーで修正しながら、特に大きな問題もなくゲームを終えることができた。誰かが判定をしてはいるものの、本来は誰が吹くべきだったか、2番手は誰だったかといった部分では、迷いが生じた場面や笛を吹くタイミングがアジャストしてしまった場面があったので、もっとプライマリ・エリアやアングルの理解を深めることと、プレイを長くしっかりと見て、判定につなげることの必要性を感じた。

○ゲーム後（ポストカンファレンス） 主任 久保 裕紀 氏（東京都）S級

1Qでのドライブに対するDefの判定は、決断されていて良かったが、POCはどうだったか？Tでのスキップパスからのアウトサイドショットの見方について、パスが出て、ショットのところで移動するのではなく、パスが出ている時に先に動いて、そして止まって4F含め判定につなげられると良かった。ルーズボールからのジャンプボールシチュエーションでショットクロックがリセットされた時の気づきは良かったが、さらにそのことを良い見せ方、示し方につなげるには、3人がしっかり集まること、そして、いつリセットになったかを確認し、マジックタイムを計算できていれば、本来の正しい残り1秒からのスタートという処置が可能であった。（ゲームは残り2秒で再開）こういったところまでの意識を3人が持つ必要がある。Lのローテーションが完了しないうちに判定したハイポストでのショットファウルについて、1番手はNew T、そして2番手としてはC。Lが判定というのは、今回判定は間違っていなかったが怖い部分である。

全体を通しての感想

まずは、約2週間前のインカレに引き続き、あまり日をおかず、このような大きな大会を経験できたことが貴重な財産です。その経験の中で、今後の課題として、①マージナルなのかイリーガルなのか、RSBQまでしっかりとプレイを長く捉えて判定につなげること、②プライマリ・エリアとプライマリ・アングルに対する理解をもっと深めること、③タイマー、ショットクロックの確認を常に意識すること この3点が挙げられます。日頃から意識して取り組んでいたことであっても、やはりまだまだ不足しているところがあったので、さらに意識して、目の前の1つ1つのゲームの中で取り組んでいきたいと考えています。また、CCを経験させてもらい、クルーワークをより良くしていくためには、コミュニケーションの取り方の工夫だけでなく、クルーの特徴も早く掴めると良いのではないかと感じました。初めて一緒に担当するクルーとどのように協力してゲームを進めていくか。そこには、3POメカニクスの理解は必須で、そのメカニクスを信じて、そしてクルーを信頼してゲームを進めていくことが重要なんだということを改めて感じました。そのことが、クルーの安心感につながり、それぞれが積極的な判定につなげられるのではないかと思います。今回感じたこと、学んだことを県内に還元していきたいと思います。年明けには鹿児島IHに向けた2次セレクション及び強化研修会も計画しています。3POを学ぶ機会が今後も増えてくるので、それらの機会を大事にしながら、自分自身もレベルアップできるよう研鑽を重ねていきます。

今回の派遣にあたり、お世話になりました東京都高体連バスケットボール協会の皆様をはじめJBAより派遣の本部審判員の皆様、そして、派遣にあたりご配慮いただきました原田審判委員長をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。